

長半岩の

私と弟は、まだ、毎年母の日に
なるお貯金したお金で、何か着るも
のや、食べ物のおみやげを贈って
いました。でも私達がよく感謝する
日は、母の日ぐらゐのものだった
のです。弟も「何をかってやうう
か」という事はかり気にして、家
の事はおかまいなしでした。でも
あちやんもおいしいといつてくれ
ました。母のその時の顔は、こま
にはほえみのあったまに感じま
した。私もこつてもうれしくいつ
までもわらっていました。その時
こそ母がまごはれたのだなとつ
くつく感じました。

